

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 6 部門第 2 区分  
 【発行日】平成 17 年 9 月 8 日 (2005.9.8)

【公開番号】特開 2003-308099 (P2003-308099A)  
 【公開日】平成 15 年 10 月 31 日 (2003.10.31)  
 【出願番号】特願 2002-114785 (P2002-114785)  
 【国際特許分類第 7 版】

G 1 0 L 19/02  
 G 1 0 K 15/02  
 G 1 0 L 19/00  
 G 1 1 B 20/10  
 G 1 1 B 20/12  
 H 0 3 M 7/30  
 H 0 3 M 7/40

【F I】

G 1 0 L	7/04	G
G 1 0 K	15/02	
G 1 1 B	20/10	H
G 1 1 B	20/10	3 2 1 Z
G 1 1 B	20/12	
H 0 3 M	7/30	A
H 0 3 M	7/40	
G 1 0 L	9/18	M

【手続補正書】

【提出日】平成 17 年 3 月 17 日 (2005.3.17)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

第 1 のデータ列を変換して第 2 のデータ列を生成するデータ変換装置のデータ変換方法において、

前記第 1 のデータ列を構成する複数のフレームの順番を変更することにより、前記第 1 のデータ列を変換して、前記第 2 のデータ列を生成するデータ変換ステップと、

前記データ変換ステップの処理により変換されて生成された前記第 2 のデータ列を、前記第 1 のデータ列に復元するために必要な第 3 のデータ列を生成する生成ステップとを含むことを特徴とするデータ変換方法。

【請求項 2】

前記第 1 のデータ列を構成する複数の前記フレームは、第 1 のフレームと第 2 のフレームに分類され、

前記データ変換ステップの処理では、前記第 1 のフレームが、前記第 2 のフレームよりも前に位置するように順番が変更されることにより、前記第 1 のデータ列を変換して、前記第 2 のデータ列を生成する

ことを特徴とする請求項 1 に記載のデータ変換方法。

【請求項 3】

入力されたデータを符号化する符号化ステップを更に含み、

前記データ変換ステップの処理では、前記符号化ステップの処理により符号化された符号化データを前記第 1 のデータ列として、前記第 2 のデータ列に変換する

ことを特徴とする請求項 1 に記載のデータ変換方法。

【請求項 4】

前記データ変換ステップの処理では、前記第 1 のデータ列に含まれているフレームのうちの少なくとも 1 つのフレームに含まれている第 1 のデータを第 2 のデータに置き換える処理を更に実行して前記第 2 のデータ列を生成し、

前記生成ステップの処理では、前記データ変換ステップの処理により前記第 2 のデータに置き換えられた前記第 1 のデータを含む前記第 3 のデータ列を生成する

ことを特徴とする請求項 1 に記載のデータ変換方法。

【請求項 5】

第 1 のデータ列を変換して第 2 のデータ列を生成するデータ変換装置において、

前記第 1 のデータ列を構成する複数のフレームの順番を変更することにより、前記第 1 のデータ列を変換して、前記第 2 のデータ列を生成するデータ変換手段と、

前記データ変換手段により変換されて生成された前記第 2 のデータ列を、前記第 1 のデータ列に復元するために必要な第 3 のデータ列を生成する生成手段と

を備えることを特徴とするデータ変換装置。

【請求項 6】

第 1 のデータ列を変換して第 2 のデータ列を生成するデータ変換装置用のプログラムであって、

前記第 1 のデータ列を構成する複数のフレームの順番を変更することにより、前記第 1 のデータ列を変換して、前記第 2 のデータ列を生成するデータ変換ステップと、

前記データ変換ステップの処理により変換されて生成された前記第 2 のデータ列を、前記第 1 のデータ列に復元するために必要な第 3 のデータ列を生成する生成ステップと

を含むことを特徴とするコンピュータが読み取り可能なプログラムが記録されている記録媒体。

【請求項 7】

第 1 のデータ列を変換して第 2 のデータ列を生成するデータ変換装置を制御するコンピュータが実行可能なプログラムであって、

前記第 1 のデータ列を構成する複数のフレームの順番を変更することにより、前記第 1 のデータ列を変換して、前記第 2 のデータ列を生成するデータ変換ステップと、

前記データ変換ステップの処理により変換されて生成された前記第 2 のデータ列を、前記第 1 のデータ列に復元するために必要な第 3 のデータ列を生成する生成ステップと

を含むことを特徴とするプログラム。

【請求項 8】

第 1 のデータ列を第 2 のデータ列に復元するデータ復元装置のデータ復元方法において、

前記第 1 のデータ列を前記第 2 のデータ列に復元するために必要な情報を含む第 3 のデータ列の取得を制御する取得制御ステップと、

前記取得制御ステップの処理により取得が制御された前記第 3 のデータ列を基に、前記第 1 のデータを構成する複数のフレームの順番を変更して、前記第 2 のデータ列を復元する復元ステップと

を含むことを特徴とするデータ復元方法。

【請求項 9】

前記第 1 のデータ列を構成する複数の前記フレームは、第 1 のフレームと第 2 のフレームに分類され、前記第 1 のフレームが、前記第 2 のフレームよりも前に位置するように配置され、

前記復元ステップの処理では、前記取得制御ステップにより取得が制御された前記第 3 のデータ列に含まれている情報を基に、前記第 1 のフレームの位置を移動して、前記第 2 のデータ列を復元する

ことを特徴とする請求項 8 に記載のデータ復元方法。

【請求項 10】

前記復元ステップの処理により復元された前記第 2 のデータ列の、所定の記録媒体への記録を制御する記録制御ステップ

を更に含むことを特徴とする請求項 8 に記載のデータ復元方法。

【請求項 11】

前記復元ステップの処理により復元された前記第 2 のデータ列を復号する復号ステップを更に含むことを特徴とする請求項 8 に記載のデータ復元方法。

【請求項 12】

前記第 1 のデータ列は、少なくとも一部暗号化され、

前記第 3 のデータ列には、前記第 1 のデータ列の暗号化された部分に対応する復号鍵が含まれ、

前記復元ステップの処理では、前記取得制御ステップにより取得が制御された前記第 3 のデータ列に含まれている前記復号鍵を用いて、前記第 1 のデータ列の少なくとも一部を復号する処理を更に実行する

ことを特徴とする請求項 8 に記載のデータ復元方法。

【請求項 13】

前記復元ステップの処理では、前記取得制御ステップにより取得が制御された前記第 3 のデータ列に含まれている第 1 のデータを、第 1 のデータ列に含まれている第 2 のデータと置き換えることにより、前記第 2 のデータ列を復元する

ことを特徴とする請求項 8 に記載のデータ復元方法。

【請求項 14】

第 1 のデータ列を第 2 のデータ列に復元するデータ復元装置において、

前記第 1 のデータ列を前記第 2 のデータ列に復元するために必要な情報を含む第 3 のデータ列を取得する取得手段と、

前記取得手段により取得された前記第 3 のデータ列を基に、前記第 1 のデータを構成する複数のフレームの順番を変更して、前記第 2 のデータ列を復元する復元手段と

を備えることを特徴とするデータ復元装置。

【請求項 15】

第 1 のデータ列を第 2 のデータ列に復元するデータ復元装置用のプログラムであって、

前記第 1 のデータ列を前記第 2 のデータ列に復元するために必要な情報を含む第 3 のデータ列の取得を制御する取得制御ステップと、

前記取得制御ステップの処理により取得が制御された前記第 3 のデータ列を基に、前記第 1 のデータを構成する複数のフレームの順番を変更して、前記第 2 のデータ列を復元する復元ステップと

を含むことを特徴とするコンピュータが読み取り可能なプログラムが記録されている記録媒体。

【請求項 16】

第 1 のデータ列を第 2 のデータ列に復元するデータ復元装置を制御するコンピュータが実行可能なプログラムであって、

前記第 1 のデータ列を前記第 2 のデータ列に復元するために必要な情報を含む第 3 のデータ列の取得を制御する取得制御ステップと、

前記取得制御ステップの処理により取得が制御された前記第 3 のデータ列を基に、前記第 1 のデータを構成する複数のフレームの順番を変更して、前記第 2 のデータ列を復元する復元ステップと

を含むことを特徴とするプログラム。

【請求項 17】

オリジナルのコンテンツデータに対して、試聴用として配布される試聴データのデータフォーマットであって、

前記試聴データの再生時間情報を含むヘッダ情報と、

試聴領域として設定され、再生品質が前記コンテンツデータの対応する部分よりも劣化するように設定されている第1のフレームと、

試聴不可の領域として、再生することが出来ないように設定されている第2のフレームと

を含み、

前記第1のフレームは、前記第2のフレームよりも再生時の時間軸で前となるように配置され、

前記ヘッダ情報には、前記試聴データの前記再生時間情報として前記第1のフレームの合計の再生時間が記載されている

ことを特徴とするデータフォーマット。

【請求項18】

オリジナルのコンテンツデータに対する試聴データを、前記コンテンツデータに復元するために配布される復元用データのデータフォーマットであって、

前記コンテンツデータの再生時間と、前記試聴データにおいて試聴領域として設定されているフレームの前記コンテンツデータにおける位置情報とを含むヘッダ情報と、

前記試聴データに含まれている少なくとも1つの第1のデータと置き換える第2のデータと、

前記第1のデータを前記第2のデータに正しく置き換えるために必要な情報と

を含むことを特徴とするデータフォーマット。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0046

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0047

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0048

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0049

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0051

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正7】

【補正対象書類名】明細書  
【補正対象項目名】0053  
【補正方法】削除  
【補正の内容】

【手続補正8】  
【補正対象書類名】明細書  
【補正対象項目名】0054  
【補正方法】削除  
【補正の内容】

【手続補正9】  
【補正対象書類名】明細書  
【補正対象項目名】0055  
【補正方法】削除  
【補正の内容】

【手続補正10】  
【補正対象書類名】明細書  
【補正対象項目名】0056  
【補正方法】削除  
【補正の内容】

【手続補正11】  
【補正対象書類名】明細書  
【補正対象項目名】0057  
【補正方法】削除  
【補正の内容】

【手続補正12】  
【補正対象書類名】明細書  
【補正対象項目名】0058  
【補正方法】削除  
【補正の内容】

【手続補正13】  
【補正対象書類名】明細書  
【補正対象項目名】0059  
【補正方法】削除  
【補正の内容】

【手続補正14】  
【補正対象書類名】明細書  
【補正対象項目名】0060  
【補正方法】削除  
【補正の内容】

【手続補正15】  
【補正対象書類名】明細書  
【補正対象項目名】0061

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 1 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 6 7

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 1 7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 6 8

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 1 8】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 7 1

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 1 9】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 7 4

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 2 0】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 7 5

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 2 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 7 6

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 2 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 7 7

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 2 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 7 8

【補正方法】削除

【補正の内容】

## 【手続補正 2 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 7 9

【補正方法】削除

【補正の内容】

## 【手続補正 2 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 8 0

【補正方法】削除

【補正の内容】

## 【手続補正 2 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 8 1

【補正方法】削除

【補正の内容】

## 【手続補正 2 7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 8 2

【補正方法】削除

【補正の内容】